

平成28年度総会報告 高33回幹事団

アルカディア市ヶ谷の改修工事により、「例年の総会会場が使えない！」という大きなハンデを乗り越えた高33回幹事団。平成28年度の総会を振り返り、概要と感想をつづってもらった。

●総会の概要

7月9日(土)、やや強い雨模様の中、浦安市の明海大学レストランニューマリンズで開催しました。例年の会場アルカディア市ヶ谷がリニューアル工事のため、今年だけは例外的な場所となりました。母校より今井秀幸校長、竹松杉人同窓会館館長、福澤桂教諭に御参加いただき、参加者は総勢121名でした。



総会の締めくくりは、全員で天竜河畔と校歌を熱唱

その後、校歌・天竜河畔の

斉唱、幹事引継ぎ、万歳三唱で幕を閉じました。

●2部講演会の内容

東京大学名誉教授宮地正人先生講演「幕末維新と伊那の国学」
パネルディスカッション「幕末史を深掘りする」宮地先生×東洋大学教授岩下哲典
司会・畑美樹

宮地先生の講演は以下の通りです。

- ①現在の上伊那と下伊那、木曾、奥三河は、江戸時代には一体のものと考えられており、その枠組みが江戸から明治期まで厳然と存在した。
- ②幕末維新の歴史的原動力となった伊那の国学もその枠組みに規定されながら、新しい時代の幕開けに一定の役割を果たした。
- ③また、地域の歴史研究は、地域を発見し、日本史全体を見直すよい機会である。

地域の歴史が全体史を変えるきっかけになるとの興味深いお話しでした。

つづくパネルディスカッション「幕末史を深掘りする」では、会場からの質問をあらかじめ集約しておき、岩下が宮地先生に

お聞きする形で進めました。今後、伊那谷の歴史研究は地域の博物館や学校教員、また地元の人々が中心となり進めていくべきであることや、関東にいる私たちもそれらに何らかの関わりを持つべきであることなどが、多くの参加者とともに共有されました。

●総会幹事を終えて

例年の会場が工事で使えないため、会場探しからのスタートという、ものすごいハンデを背負った高33回幹事団。会場は、岩下の勤務先明海大学(当時)関連レストランで落ち着くも、「遠すぎる」という指摘は最後までちらほらと。担当幹事も打合せ時は、一桁止まりの参加状態で役員の方々には、たいへんご心配おかけしました。

しかしながら、総会当日は伊那からの応援団5名を含む16名が結集し、無事役目を果たすことができました。早い時期から準備いただいた宮地先生、湯澤さん、また役員、参加者等、関わってくださったすべての皆さんに感謝申し上げます。中でも、悪天候の中、駅前等で会場案内に立ってくれた岩下ゼミ

の明海大学学生5名、乾杯のために「夜明け前」を提供していただいた伊那谷最北の酒蔵小野酒造店の小野能正社長、美味しい中華料理を提供してくれたニューマリンズ森山大樹マネージャー、本当にありがとうございました。

最後に以下の高33回幹事団諸君にも多謝!

●幹事団メンバー

- 今須良一・伊藤一茂・加々美(旧姓:池上)・洋子・北村(同:北原)・亜生・久保村徹・下島(同:菅原)・香・下島和樹・白鳥藤雄・矢島仁。
- 伊那からの応援団:須藤祐司(高33回燦々会長)・千葉徳良・畑美樹・宮澤友浩・吉澤亨。
- (高33回岩下哲典・茅野一穂)



さまざまな苦勞を乗り越えた高33回の幹事団